

東アジアとクラシック音楽 その現在と未来

2019 年 11 月 9 日

100 周年記念ホール

東アジア文化都市 2019 豊島パートナーシップ事業の一環として、東アジアの演奏家によるコンサートが開催されました。

プログラムは常日頃クラシックのコンサートで演奏されるモーツァルトやベートーヴェンなどの曲だけでなく、日本・中国・韓国の作曲家の楽曲も演奏されました。MC の松村詩史さん（指揮研究員）による世界各国と東アジアの音楽シーンの流れと楽曲解説によって、聴衆の皆さまにとってはより聴きやすく親しみが湧くようなコンサートとなったのではないのでしょうか。

プログラムの中でも特に盛り上がったのは、本学の講師陣・ゲストの出演者と Christian Academy in Japan の子どもたちとの合奏『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』。子どもたちは今活躍する演奏家たちとの合奏体験を通じ、異なる背景を持つ者同士が音楽でひとつのものを作り上げる喜びを感じたことでしょう。

音楽が国や民族を越えて、人々の心をつないだひと時でした。



Christian Academy in Japan の子どもたちと



曲目

- L.V.ベートーヴェン／弦楽三重奏曲 第4番 変ホ長調 Op.3 より第1楽章
阿炳(華彦鈞)／二泉映月
ハン テソブ／「白い風が通る」独奏ヴァイオリンのために (日本初演)
梶場 富美子／「わだつみ」チェロとピアノのために
W.A.モーツァルト／アイネ・クライネ・ナハトムジーク K.525 より第1楽章
S.ラフマニノフ／悲しみの三重奏曲 第1番 ト短調
R.シューマン／ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op.44